

## 【活動レポート】4/11～15 ウェイトリフティング・マスターズ・ワールドカップ大会 リエゾンボランティア



平成 28 年 4 月 12 日～15 日にかけて、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館にて開催された日本ウェイトリフティング協会主催「2016 MASTERS WORLD CUP」に通訳リエゾンボランティアとして参加させて頂きました。

主な通訳は日本語⇄英語だったのですが、世界大会ということで各国から選手が来日しており、必ずしも全選手が日本語、英語ができるとは限りません。ときにはスマートフォンの翻訳アプリを駆使しながら、ウクライナ語⇄英

語⇄日本語といった通訳サポートもさせて頂きました。今回の大会はマスターズワールドカップということで、選手の出場資格年齢は 35 歳以上で、なかには 80 歳を超える選手もいらっしゃいました。

ここで個人的に印象に残った選手を挙げさせていただきます。

・81 歳の元軍人でその経歴から、戦時下(日本占領下時代も含む)での話をして下さったマレーシアの選手(私の専攻語であるマレーシア語で通訳させて頂きました)

・これまで日本メーカーのウェイトリフティングシューズを使用し優勝しつづけてきて、新しいシューズを求めるのも兼ねて日本に来ていたが、海外発行のクレジットカードが原因で欲しかったシューズを買うことができなかったイスラエルの選手

・VISA が下りず長らく世界大会に出場できなかったが今回やっと VISA が下り、晴れて世界大会に出場でき、見事優勝して表彰台で涙を流していたモンゴルの選手

数日参加させて頂いただけですが、沢山の出会いがありました。日本のみならず世界情勢まで考える良い機会となり、2020 年に東京五輪を控える私たちが何をすべきか、大会運営についても学ぶべきことがとても多かったです。東京五輪ではボランティアを多く動員することが見込まれていますが、セキュリティやジャッジに関する大会の重要な部分はきちんとお金をかけ、プロに任せることも大切であると感じました。この経験を今後にしっかり繋げていこうと思います。関係者の皆様、どうもありがとうございました。

外国語学部マレーシア語専攻 飯島葉月

日時: 2016 年 05 月 13 日